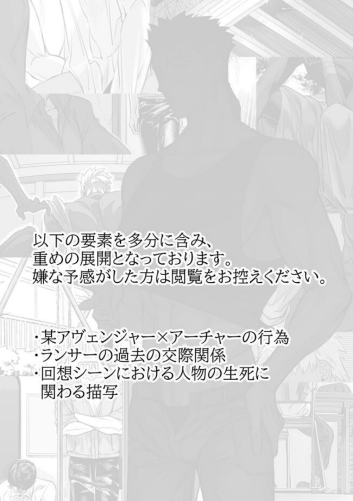


Midnight Confession



以下の要素を多分に含み、
重めの展開となっております。
嫌な予感がした方は閲覧をお控えください。

- ・某アヴェンジャー×アーチャーの行為
- ・ランサーの過去の交際関係
- ・回想シーンにおける人物の生死に関わる描写



オレ達に抗う戦士サマが
こんなにスケベな身体の
持ち主だったとはね

ちよっと弄って
やっただけで
ピンピンじゃんか

たまってるのアンタ？





どーしてそのままで
オレらを拒むかねえ

人間とオレ達
切っても切れない
間柄だっていうのにな



貴様らのそれは
人が人として生きる
ための理性を喰い潰す

個々が己が欲に
振り回される世界など
嫌なもので
あるはずがない

みゆづ



貴様らの行いで
泣く必要のない者が
泣かねばならない
というなら

到底許容など
できない

つれなくて
泣いちゃうぞ



人質の女性を
解放しろ



アンタのこと
なんかもう
忘れてるさ



女だったら
コイツらの相手に
もう夢中だよ



見ず知らずの
人間のために
健気なこって





いいのか？
女の命が危ないぜ







流石だねえ



こっちも
エッチな色と形
ですこと



くぱっ



こっちは
いつでもこいつも
一辺倒なことだ



オレらってば
頭固な奴ほど
試してやりたく
なるように
出来てるからな

そう言えば前に
猛犬ともやり合った
らしいじゃん

なに

あいつので
買かれたたって？



アンタのケツだって
おしやべりだ

騎まったぜ？



ふざけた事を
ベラベラと
三下の真似事が



怪えてきた中で
どのチンコが一番
美味かったか
教えてくれよ

そうすりゃ
女の扱いが
改まるかもな

この…

どこまでも
痺し——

ずっ



オレの体液は
触れた者を触んで
狂わせる代物でね

さあて、心と身体
先に墮ちるのは
どっちでしょうか











ご挨拶どうも

おまえらも可愛がってやんな



お優しいチーフレッドが気持ちよくしてくれるぜ



眼が萎まった

やっぴい...



よお
仕事終わり
ですかい？





血濡れの猛犬



オタタも
選びつけてくわー











失せな
ここは直に
崩れる

人質は
下の階だ





これが貴様の所持
だというなら
疑いはすまい

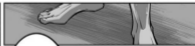


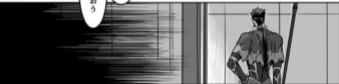
何だぞ？

グズグズしていると
女の命は保障
できねえがな



人が人である限り
「オレ達」は
いくらでも
お前の前に現れる







すと、



イメージシ
十五分後ね

はい



はい

カットー



役は仕舞い
あとは裏方でね



どうぞ
羽織りください

あれ？
アナタ…





あの人が
手が冷たかったなって
何となく顔色も――

どうかしたか？



分かんない
気のせいかも



そうかい







タオル絞れそ



お疲れ様

お疲れさんです

ドーも

一瞬幽霊でも
見たような反応
された気が
ピンとか
効果音付きで



ずっと布
巻いてましたしね

思ってた感じの
顔と違いましたか？



おっと
顔が隠れてて
よかったやつかあ



失礼
知り合いに
似ていてね

つい見入って
しまった

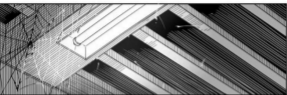


今日は不自由な状況下でよく動いていた
疲労も大きかったろう
充分身体を休めることだ

ではな









知ってる

なら君の部屋に
帰りましたえ
右に二歩だ



今日は夕食の日
ではないはずだが



ちいと邪魔するぜ

あんたんとこに
ライター
置いてきちゃった
みてえでな



さっさと
済ませろ

探しておく
といっても
聞かない顔だ





療養の穴埋め
だか知らねえが

今にも
ぶっ倒れそうな面して
よくやるこった



大變態な

君の目が節穴
なんじゃないか？

エミヤ

面倒臭の
いいことだ



慰めずには
いられないほど
私が弱って見えるか

君の興味に
付き合う気分
じゃない

無遠慮に
人のプライベートに
踏み入るのが
君の流儀かね



お前が撞り潰れる
のを黙って眺めてる
くらいなら
クソ野郎だろうが
構わねえよ



もういいだろう
出ていってくれ

自分の限界くらい
自分で理解している



なあ
目の前にいるのは
信じるに足りない
相手か？



時々度し難く
図々しい

度胸もあり
才覚にも長けて
誰にだって
好かれるような



出来た男だよ



あとは

あまり
運のいい方では
なさそうだ

それくらい
だろうか



君が私のことを
知らないように

私も君のことを
よくは知らない



…そうだな

いいから
お前なら

だったら
聞いてくれよ



それで續引き
したつもりか



オレには
籍を入れるはず
だった女がいた



まだ日本に来る前
スタイルにいた
頃の話しだ



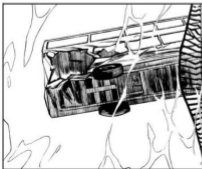
そりゃ
大切に育てられた
種入り娘みたいな
娘さんだよ

デートするにも
一苦勞な相手
だった









娘さんの親族の
反対も押し切って

ようやく一緒になる
ってところで
先立たれちゃった



事故で
制御を失った
バスは川に落ち

動揺した
子供を庇って

譲さんの平素の
暮らしては
乗らないだろう

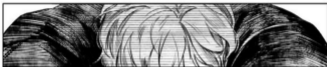
オレに逢うために
乗ったバスだった



宝を奪って
おきながら

大事な時に
何も出来なかった
役立たずが
同じ土踏んでるのが
許せなかった
んだらうさ







國に残ろうと思えば
残れたはずだ

それを
選ばなかったのは

自分を賣めた
からののか？



どうにもならない
ことが余計に
國をよぎるばかり
だったかな



オレなりの
けじめだ

見知らぬ土地に
来たところで



君だって
彼女を大切に
していたんだろう？



何気なく
隣で笑っていた
この男にも
別離があった



酷く理不尽で
無慈悲な



ああ
芯のある
いい女だった



けれど
君は繋いだ紐を
備後には
しなかつたんだな

彼女と過ごした
時間を今も尚――

馬鹿者が

こんな形で
晒していい思い出
じゃないだろうが



お前の番だ





視界に映るのは
煙と赤い光

深夜
ある要護施設から
火の手が上がった



面白くない

それでいて
得るところのない話だ



自分より幼い
子供の手を引く
くらいが出来る
種々のことだった



だめだ





焼けて
何か落ちた
んだろう

ほら



外に

早く





無力感と恐怖に
駆られながら
火の波に
追いつめられて





どうせ
助からないなら
あの火の中に
飛び込んでいれば



こんな風に
胸が痛くも
ならなかった
だろうか







悪人の男に引き取られ
兄弟として五体満足で
育っていった



だが
いつだって

在りし日の出来事が
日常の薄布を隔てて
自分を見つめ続けていた

やがて
転機が訪れる





床に臥しがちに
なっていた
養父との死別



葬儀を終えた
兄弟の前に

養父の実娘
だという
少女が現れた

彼女は義兄弟に
父を失った感情を
ぶつけることは
しなかったが



瞳の奥には
暗い色が見えた



ふと、火災で
自分たちだけが
生き残った時の感覚が
背中に張り付いた

養父は当分の貯えを
遣してくれていたが
素直に受け取る
ことは出来なかった

彼女が受け取るはず
だった父親との時間と
愛情を思えば

遺産は病を患った
彼女のために
使われるべきだと



とはいえ
家は立派なもの
弟は学生



いくらあっても
金は足りないほど



大学を中退して
家を出て働いた

目の前で
こぼれ落ちようと
するものを
握めない自分が
厭わしかった

そうして過ごして
ある時に気が付く

あれだけ感じていた
「視線」が意識の外に
あったことに



忙しい日々
すっきり適応して



痛みが
過ぎていく



次第に過去が



それが
どうしようもなく
耐え難い



けどよ



オレはそこに
いなかった人間で
何を言っても
部外者の言葉
でしかない



出来る種一杯をして
命を贖いだんだろうか？
弟を
守ったんだろうか？

それも
認めてやれねえか

思いも覚悟も
お前の一部で

お前がお前で
いるために
必要な時間だった



これ以上は
罪悪感に
しがついて
自分を使い潰すな



その時が来りゃ
睡でも過ぐんだ

生きて
死のうぜ



…夢を見る



遠い昔の

焦げて
拂ってしまった



弟は幼かった

ぶち撒けてもいい
と思える相手は
いなかったのか？

長いこと
独りで抱えて
きたんだろう



それに事情を
知った人は皆
悲しい顔をする



話す必要がないなら
黙っていた方がいい





凄惨な出来事は
伝え聞くだけですら
人の心を引き裂く

自分の傷には
無頓着なくせに
他人のそれには敏感

結局
馬鹿に傲世で
優しいのだ
こいつは



テメエが面倒くさい
のなんかとっくに
承知済みだっつての

屁かせるなら
とっくに
尿かしてらあ



愛想が…
尿きた、か？

ったく



あんたは強いさ

これからだって
強くなれる







よろしく
お願いします

ええ
宜しく
お願いします



それじゃあ
改めてよろしくね



今日は
お硬い脚本はない

ルックスを
活かして
自由に
やってみよう



誰に聞いているんだ

後輩君の真姿を十分に
カメラの向こうに
見せつけてやるさ



調子は
戻ったかよ



あ、え

閲覧ありがとうございます

ございました！

2021/11/28開催のイベントで
本作と+αを収録した本が出る予定です。

ご興味のある方はキャプションも
ご覧ください。

